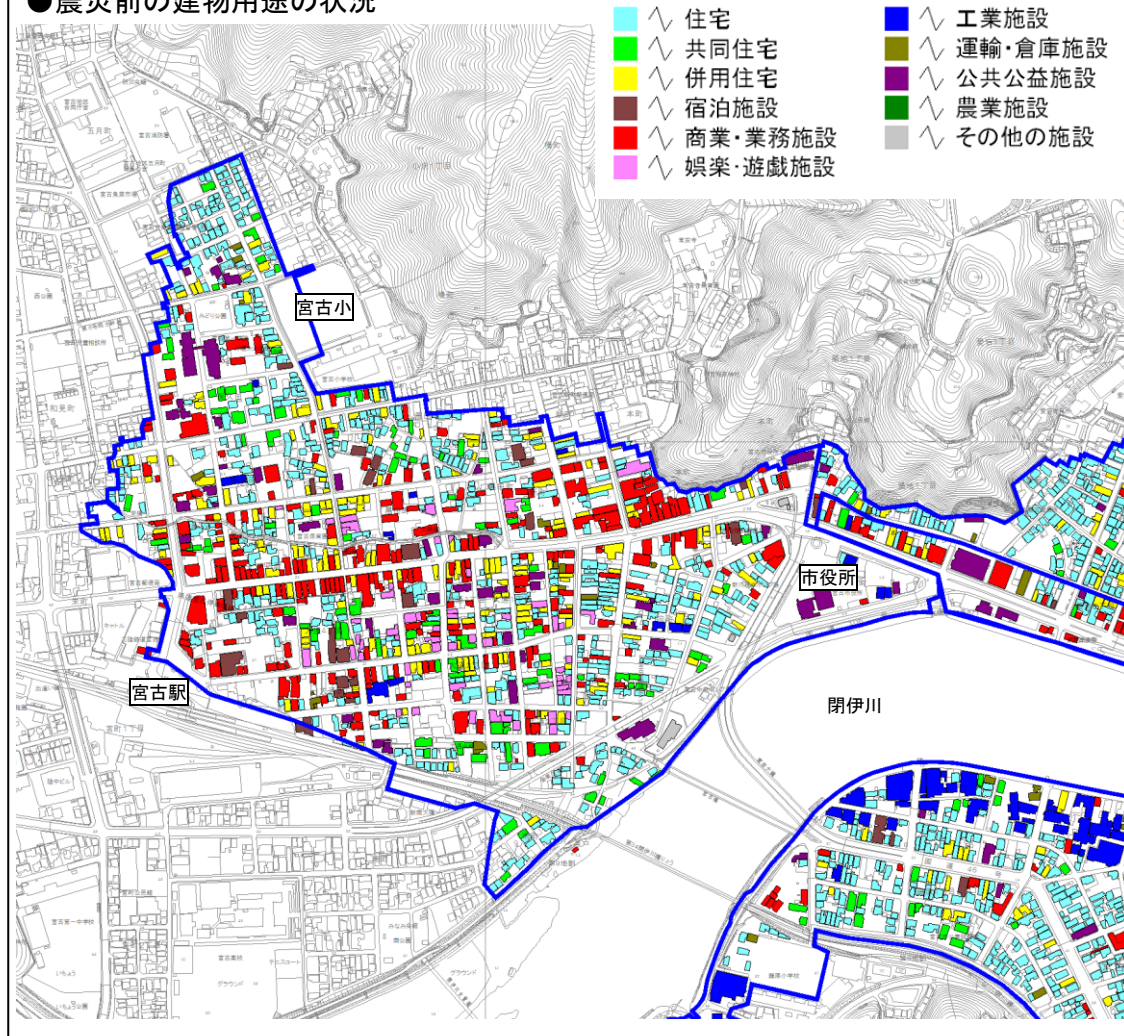


地区の現況

●基盤整備の概要

- ・宮古市の顔として宮古駅を中心に商業機能、行政機能等の集積が図られてきました。
- ・東西の交通軸である国道 106 号と J R 線、南北の軸である国道 45 号、J R 線、三陸鉄道が集まる交通の結節点となっています。

●震災前の建物用途の状況



●宮古市東日本大震災復興計画基本計画(案)

第 5 地域別復興まちづくりの方向性

宮古地域

- ・防潮堤の新たな整備と必要に応じ嵩上げを促進するとともに、背後地の高台を活用するなど、安全で安心して暮らすことのできる住宅地の整備を進めます。
- ・魚市場、漁港、港湾や観光施設などの産業関連基盤については、施設の復旧に向け、計画的、段階的な事業展開により、着実な復興に取り組みます。
- ・防潮堤の外部や防潮堤を設置しない地域における避難体制の強化・確保に向け、避難タワーや避難ビルの設置を検討します。また、避難路、避難場所については、高齢者や障がい者に配慮し、誰もが容易に避難することができるよう、その整備の見直しや避難道路網の複線化を進めます。

●宮古市都市計画マスタープラン(H15.3)地域別構想「中心地区」

キャッチフレーズ：みやこまち

◆地域の特色

- ① 宮古市の「かお」となっている地域で、宮古駅を中心に商業集積地がひろがり、それを包むように業務地や住宅地が形成されています。
- ② 近年、宮古病院の移転や郊外型大型店の立地に伴い商業の活力が衰退し、人口も減少するなど、都心機能の低下がみられます。
- ③ 地区の外縁部は主に住宅地になっています。

◆地域の課題

- ① 中心市街地の活力が衰退し、商店街から客足が遠のき、都市の中心性が失われています。
- ② 中心市街地の都市基盤施設の整備が立ち遅れています。

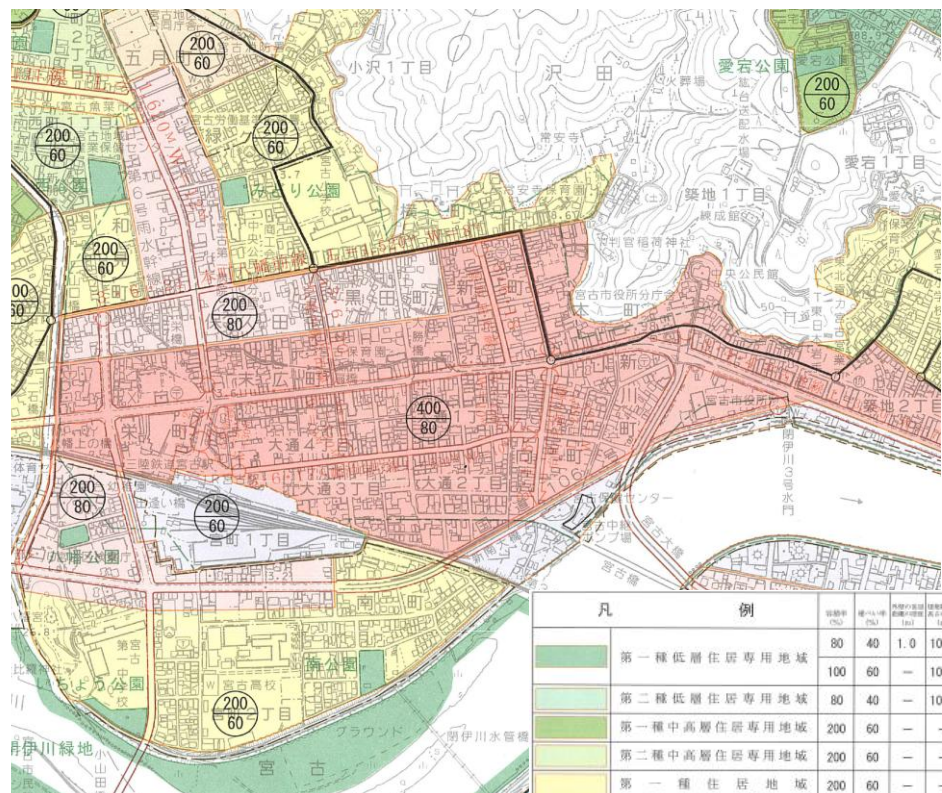
◆地域の将来像

- ① 将来にわたって宮古の「かお」であり、明るい街並みを創出しながら当市の中心商店街として発展します。
- ② 外縁部は、住環境が維持・保全された住宅地が形成されます。

◆まちづくりの方向 【土地利用】

- ① 中心部は商業活性化を支える土地利用を図ります。
- ② 国道106号沿道は、商業・業務系の利用増進を図ります。
- ③ 外縁部の住宅地は住環境の保全を図り、新たな開発に対しては良好な住環境を確保するよう誘導します。
- ④ 閉伊川の河川敷は市民のやすらぎの空間とします。

■都市計画図

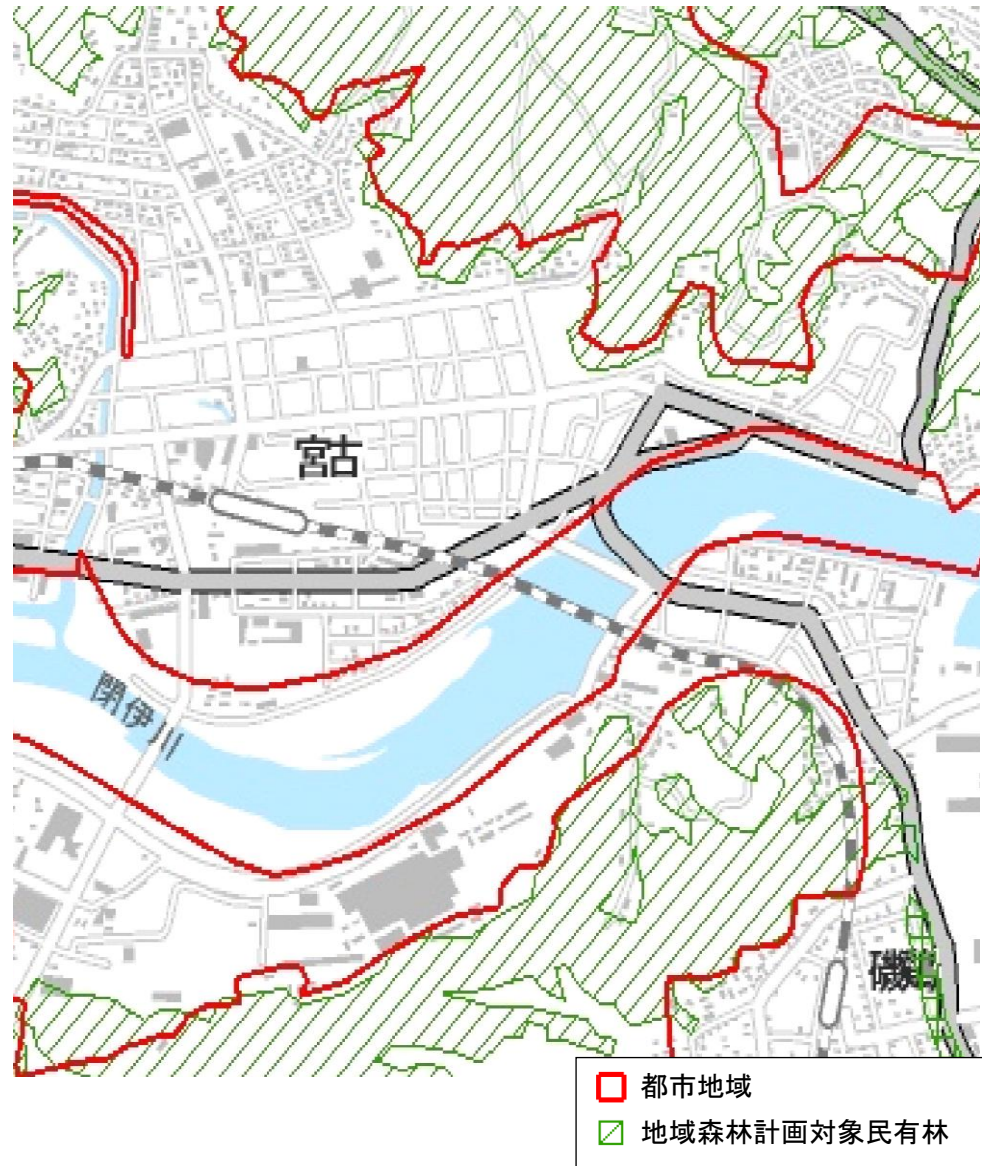


凡 例	容積率 (%)	建ぺい率 (%)	高さ制限 (m)	建築物の用途制限 (種別)
第一種低層住居専用地域	80	40	1.0	10.0
第二種低層住居専用地域	100	60	-	10.0
第一種中高層住居専用地域	200	60	-	-
第二種中高層住居専用地域	200	60	-	-
第一種住居地域	200	60	-	-
第二種住居地域	200	60	-	-
近隣商業地域	200	80	-	-
商業地域	400	80	-	-
準工業地域	200	60	-	-
工業専用地域	200	60	-	-
準防火地域				
公園				
緑地				
都市計画街路				
区画整理区域				
臨港地区				
宅地造成工事規制区域				
風致地区				
第1種	8	2/10	3	1.5
第3種	12	3/10	2	1
第4種	15	4/10	2	1

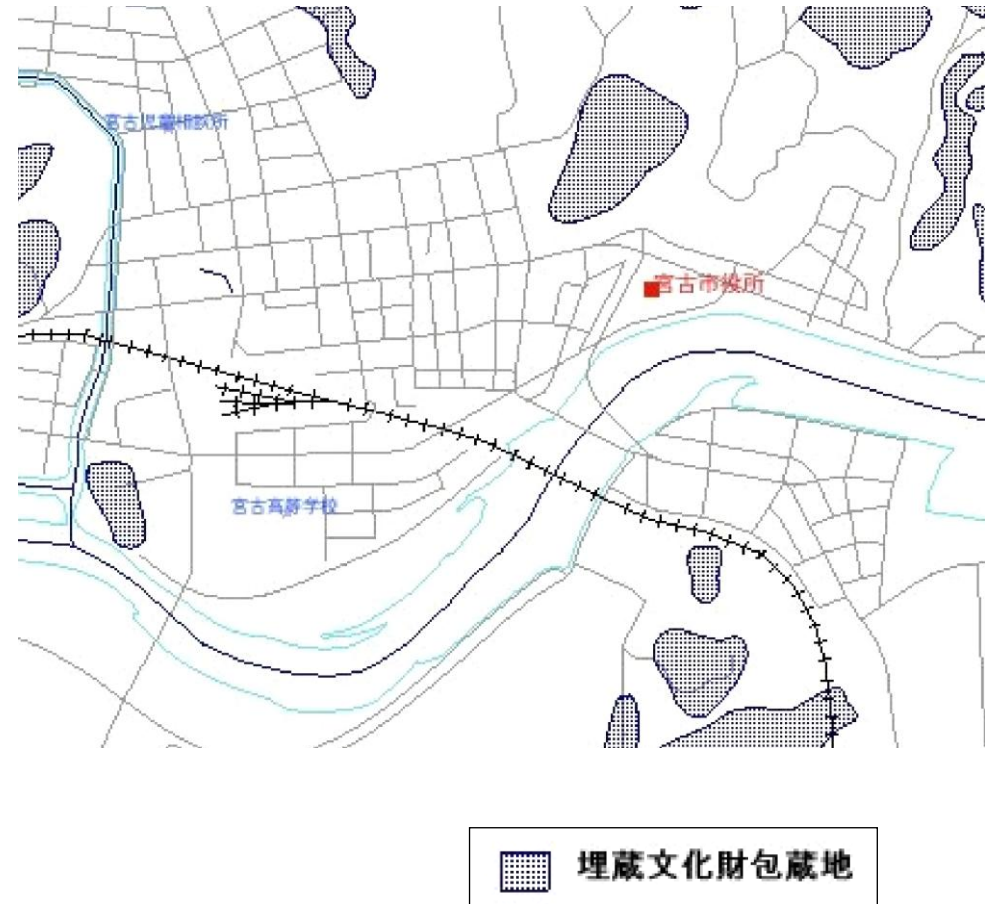
都市計画区域内で用途地域の指定のない区域
 容積率 200%
 建ぺい率 70%

200 上限 容積率 (建築物の延べ面積の集積率に対する割合)(%)
 60 下限 建ぺい率 (建築物の建築面積の敷地面積に対する割合)(%)

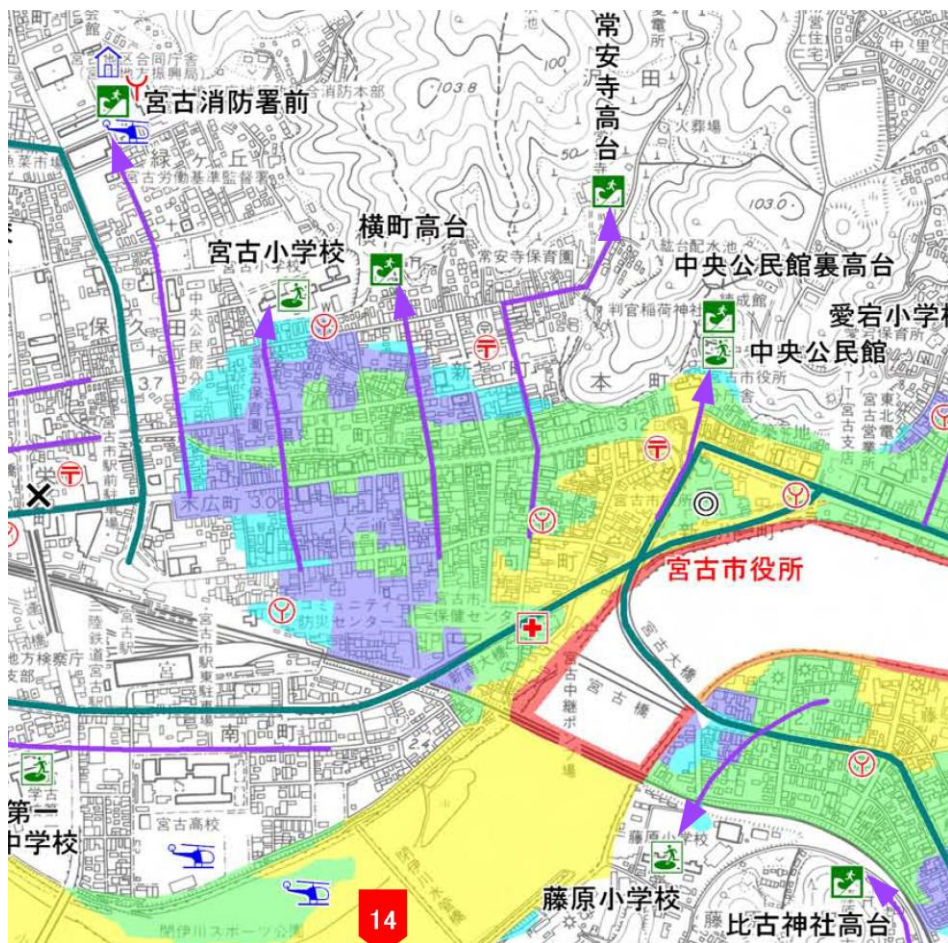
■国土利用計画



■埋蔵文化財等の状況 (いわてデジタルマップより)

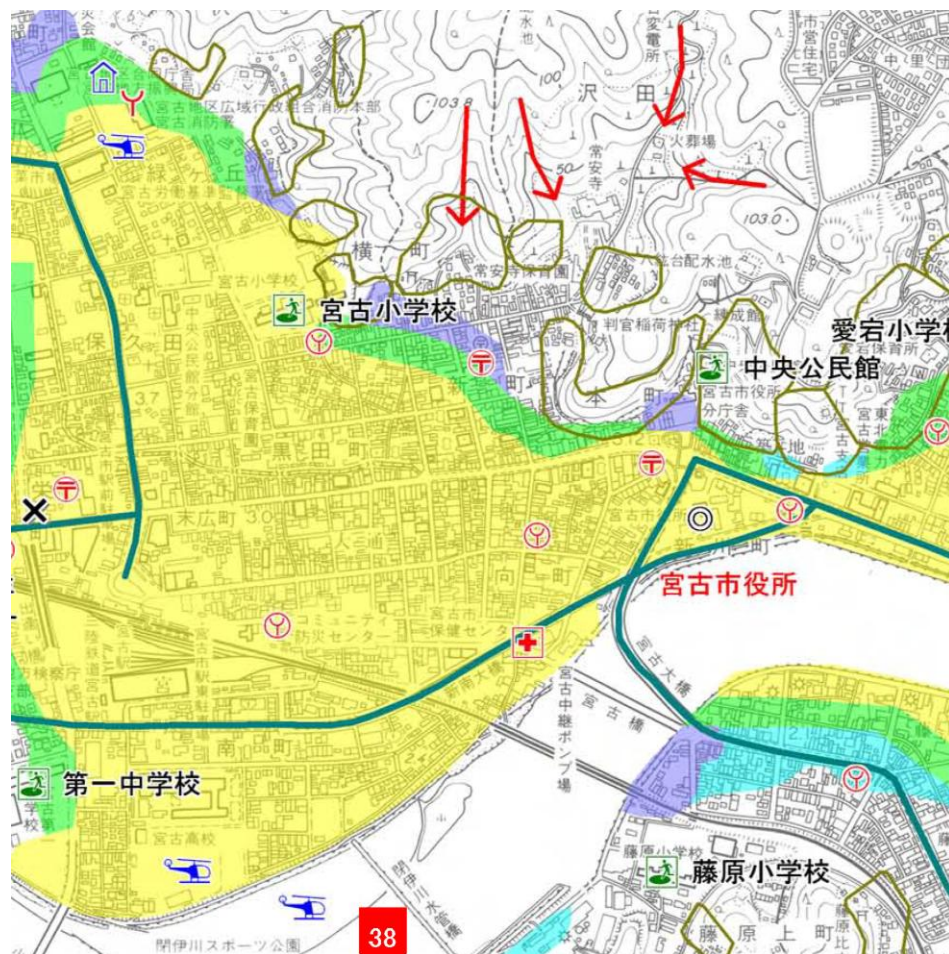


■避難場所、避難ルート状況（宮古市ハザードマップより）



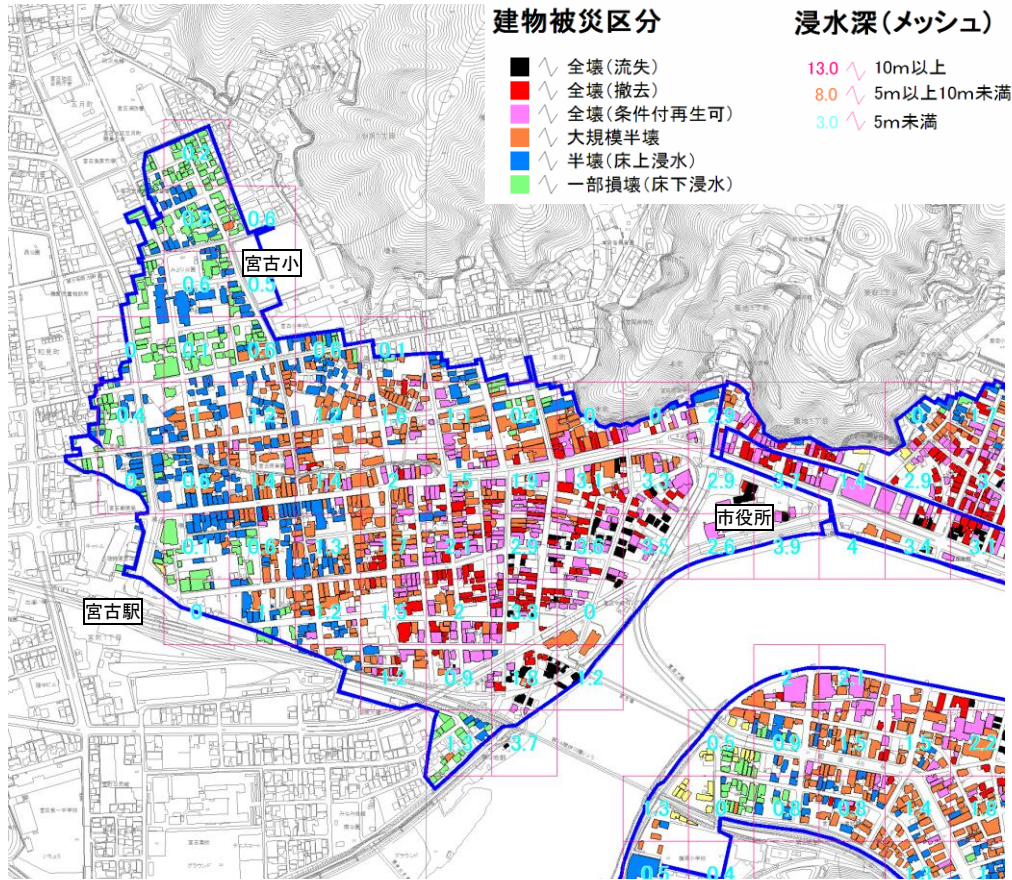
避難場所・避難所		津波浸水深さ	
	避難場所 (高台)		0.5m未満
	避難所		0.5~1.0m
	避難ルート		1.0~2.0m
			2.0~4.0m
			4.0~6.0m
			6.0m以上

■危険区域の状況（宮古市ハザードマップより）



避難所	洪水浸水深さ	土砂災害危険箇所
	1.0~2.0m	急傾斜危険箇所 (がけくずれ)
	0.5m未満	
	0.5~1.0m	土石流危険渓流
	2.0~5.0m	
	5.0m以上	

■震災による被害状況



■三陸沿岸道路が通る概ねの範囲

